

本を読みましょう

皆さんは今までに「本を読みなさい」と言われることがありませんでしたか？なぜ、読書を勧められるのでしょうか。それは「本を読む」ということには実に多くの効果があるからです。たとえば、「語彙力」の向上。本を読むことで今までは知らなかった言い回しや漢字を知ることができます。そしてそれらを用いた「文章力」も身につきます。このような総合的な「国語力」はあらゆる教科学習の土台ともなります。また、自然と多くの知識を得られるため、いろいろな話題に対応できるようにもなり、それはやがて「コミュニケーション力」にもつながっていきます。ほかに、ある本に書かれたフレーズが自分を鼓舞するものとなったり、支えとなったりすることもあるでしょう。このように「読書」は皆さんの可能性を果てしなく広げていってくれます。下に本校からの推薦図書を挙げました。この中から興味のある本を選び、1冊以上読んでワークシートを完成させてください。皆さんの未来を切り拓く第一歩となるはずです。

	書名	著者	出版社	紹介文
①	きみの友だち	重松 清	新潮社	小学生の時の事故により足が不自由になった少女と、そのまわりにいる人たちが主人公となる短編集。一話一話独立したお話ですが、すべてのテーマはつながっています。「本当の友だちって？」と考えさせられます。
②	あと少し、もう少し	瀬尾 まいこ	新潮社	悩みや葛藤を抱えた中学生たちが集まった駅伝チーム。中学最後の駅伝大会に挑む陸上経験の乏しい仲間たちが、ぶつかり合いながらも思いを一つにタスキをつないでいこうとします。6人のメンバーに自分と重なる人を探しながら読むのも面白いかもしれません。
③	ビルマの堅琴	竹山 道雄	新潮文庫	1945年、夏。ビルマ（現ミャンマー）の戦場から帰らない一人の日本人兵士がいました。。無言のまま思い出の堅琴をとり、日本に帰る戦友を見送り、森の奥へ消えます。彼が帰らなかったのはなぜだったのでしょうか。戦後の荒廃した人々の心に一筋の希望を兆したお話です。
④	オー・ヘンリー傑作選	O・ヘンリー 大津 栄一郎 (訳)	岩波書店	「賢者の贈りもの」「最後の一葉」等々で知られる短編の名手。絶妙な物語、独特のユーモアと皮肉……辛酸をなめつくした一人の生活者が世に送り出した、ほろ苦くて香り高い、ウィットに満ちた大人な短編集です。
⑤	星の王子さま	サン・ テグジュペリ	岩波書店	言わずと知れた作品。読みやすいのに内容が深く、また、成長とともに解釈や感想も変わってくる本です。15歳の今と大人になったときとどう変わるかも試してほしいです。また、簡単な英語版も出版されていますので、1クラス入学者にはそちらも合わせて読むことをおすすめします。
⑥	恋する伊勢物語	俵万智	ちくま文庫	古文に対して「難しい」「苦手だ」という意識を持つ人がいるかもしれません。そんな人はぜひ、この本を読んでみてください。1000年前の人たちも、私たちと同じように悩み、恋をし、笑ったり泣いたりして過ごしていたということがわかります。古文に対する見方が変わる一冊です。

⑦	光源氏の一生	池田弥三郎	講談社	「源氏物語」を知っている人は多くいても、読んだことのある人は少ないと思います。登場人物も文章量も多く、さらに古文で書かれていることから、ハードルが高いと思われるかもしれませんが、そんな「源氏物語」についてこの本は非常にわかりやすく丁寧な言葉で説明してあります。「源氏物語」の入門書として最適です。
⑧	考えの整理	佐藤雅彦	暮らしの手帖社	NHK「0655」「2355」「ピタゴラスイッチ」「デザインあ」。これらの番組を手がけている人が書いた本です。普段私たちが何気なく過ごしている日常の中に、多くの驚きと発見があるということに気づきます。様々なものの見方を手に入れることができる一冊です。
⑨	日本人の足を速くする	為末 大	新潮新書	日本人といえばスポーツに対して精神論・ハードトレーニング・運を味方にする。等、どこか抽象的な部分が多いです。しかし、記録を出すための科学と経験を合わせる視点、メンタルトレーニングの必要性、日本人の特性などを世界の高さから教えてくれます。東野高校に入学し、スポーツを志す生徒には是非読んでほしい一冊です。
⑩	日本のデザイン -美意識が作る未来	原 研哉	岩波新書	まさしく歴史的な転換点に立つ日本。経済や文化活動のあらゆる側面において根本的な変更を迫られる今、この国に必要な「資源」とは何か。美や幸福そして誇りを得るために必要なものは何なのかを知ることができる本です。
⑪	友だち幻想 ～人と人とのつながりを考える	菅野 仁	ちくまプリマー 新書	この本は、クラスメイトやSNS上での繋がりにおいて、人間関係トラブルを未然に防ぐためにおすすめの作品です。「みんな仲良く」とは言うけれど、どうしても擦れが生じてしまうもの。必要以上に傷つかずに人づきあいをしていくための教えが盛り込まれています。友達と今以上に上手につながっていく術を身に着け、もっと自分らしい生き方ができるようになるヒントを与えてくれるでしょう。
⑫	十六の話	司馬遼太郎	中公文庫	司馬遼太郎は平成八年に、手塚治虫は平成元年に亡くなっています。この二人に共通していること。それは困難な社会状況に直面しても絶望することなく、一人の人間としてどう生きるべきかということの小説やマンガなどを通して訴えかけていた点にあります。 彼らはそれぞれの著書の中で今を生きる、そしてこれから生まれ来る子供たち（それは紛れもなく令和の時代を生きるあなたたち）のために魂のメッセージを残しています。それが
⑬	ガラスの地球を救え	手塚治虫	知恵の森文庫	⑫「十六の話」の中にある【洪庵のたいまつ】【二十一世紀を生きる君たちへ】と⑬「ガラスの地球を救え」の中にある【アトムのおしり】です。激動の昭和を生きた二人の先輩のメッセージを受け止め、高校3年間というかけがえのない時代を生き抜いてください。そして卒業する時、もう一度読み返してみてください。

読書課題 ワークシート

氏名

書名《

》

著者名《

》

印象に残った一文を書きましょう。

なぜ、その部分が印象に残ったのか、その部分から考えたことなどをまとめてみましょう。